

科学館を構成する要素の研究

北出 真梨

近年、科学技術の発展に伴いその複雑化が進み、科学技術への理解の重要性が指摘されるようになってくると共に、情報提供の場としての科学館の役割が期待されるようになってきた。しかし、そのような役割が明確にされているにも関わらず、科学館がどのようなもので構成され、どのような類型（科学館の傾向）を持つ機関であるのかということについて、明確にされてはいない。そこで本研究では、科学館を構成する要素を明らかにし、その構成要素から科学館の類型を見つけることを目的とし、調査および分析を行った。

科学館を構成する要素を明らかにするために、管理運営団体や延床面積などの基本情報と、実際に科学館にある来館者のために用意された外的要素（展示やイベントなど）を、調査した。「全国科学館連携協議会」に加盟している科学館のうち、関東圏内の科学館 33 館に対して、ホームページによる基本情報調査と、各科学館への訪問調査を行った。基本情報調査の結果、14 項目の基本情報（管理運営団体や休館日、大人入館料、子ども入館料、大人年間パスポート、子ども年間パスポート、ワークショップ、企画展、実演、テーマ・目的、対象分野、延床面積、建設面積、敷地面積）があがった。訪問調査では、科学館の持っている設備や展示、開催されているイベントやスタッフ数といった 4 つの外的要素があることがわかった。これらの基本情報と外的要素を、分析により大まかな類型を得るためにそれぞれ 2~6 つにわけ、基本情報と基本情報の関係や、基本情報と外的要素の関係について、分析を行った。

その結果、基本情報と基本情報の関係については、以下のことがわかった： 管理運営団体と入館料より、民間企業が管理運営している科学館は入館料を取っている館が少ない、

管理運営団体と主要テーマの有無より、民間企業が管理運営している科学館は主要テーマを持っている科学館が多い、 管理運営団体と対象分野より、民間企業が運営する科学館は生活系分野を多く扱っている。また、基本情報と外的要素との関係については、以下のことがわかった： 主要テーマと展示数より、主要テーマのある科学館は閲覧展示が多く、主要テーマのない科学館は体験展示が多い、 管理運営団体と開催されているイベントの有無より、ワークショップを行っている科学館は公共団体や民間企業が運営する科学館に多いが、実演に関しては民間企業の科学館は多く、公共団体の科学館は少ない、 延床面積と設備数・展示数より、設備や展示の数は延床面積に比例しない。

本研究により、科学館の類型の一端を得ることができた。今後は、調査対象を全国に広げたり、基本項目や外的要素を増やし、さらに細分化して分析を行うことで、より詳しい類型を得ることが可能になるのではないかと考えられる。

（指導教員 三波千穂美）